



あたまの健康チェックを受けませんか？

「最近もの忘れがひどくなったかも？」それは、ただのもの忘れでなく認知症の前段階である軽度認知障害 (MCI) かもしれません。MCI は記憶力の低下が見られるものの、日常生活にあまり支障がないため、本人も周囲も気づきにくい状態です。

MCI の段階で早めに気づき、適切な生活習慣改善などの予防対策や治療を受ければ、認知症の発症を防いだり、進行を遅らせることができるとわかってきています。

自分自身や家族、周りの大切な人のためにもあたまの健康チェックを受けてみませんか。



簡易的なチェックです。
気軽に受けてみませんか？

◎対象 市内在住で 65 歳以上の人
(原則、認知症の診断や治療を受けている人は除く)

◎日程

市役所	4月16日(月)、5月15日(火)
須恵公民館	4月24日(火)、5月9日(水)

※時間はいずれも 9:30 ~ 16:30 です。

◎内容

個別に「もの忘れ」の程度を確認できるチェック表を用いて実施、結果説明、認知症予防についてアドバイス (所要時間：1人20分)

◎費用 500 円 (当日徴収)

◎定員 各 65 人 (先着順)

◎申込期間

4月9日(月)~検診実施前日 8:30 ~ 17:15 (土・日曜日、祝日を除く)

◎申込方法 電話で申込み

〈問い合わせ・申込先〉地域包括支援センター (高齢福祉課内 ☎ 82-1149)



空き家対策をしましょう

本市では7軒に1軒が空き家で、その数は増加しています。中には、管理が行き届かず、庭に雑草が生い茂り、建物の老朽化が進行しているものや、不審者の侵入が心配されるものも見られます。このような管理の行き届かない空き家が社会問題となっています。

今後、空き家となる可能性のある住宅をお持ちの人は、早めの対策が必要です。

■ 空き家になる理由 (一例)

- 所有する家に住まなくなった
- 遠方や住む予定のない実家等を相続した
- 親を呼び寄せて、実家が空き家になった

■ 空き家をそのまま放置しておくこと…

近所迷惑、防災性の低下、防犯性の低下、衛生の悪化、景観の悪化

■ 居住中から空き家になったときのことを家族で考える

住宅は、居住者の移転や世代交代等で空き家になることがあります。住んでいるときから権利関係の確認や現状に合わせた登記の変更、相続などの引き継ぎ方法を早めに考えておきましょう。

■ 空き家情報サイト

空き家の適正な管理方法や関連情報、市や町の空き家バンクサイトの情報も掲載しています。

岡山住宅課 (☎ 083-933-3883)

■ 空き家相談窓口

空き家の所有者に、適正な管理・活用(賃貸・売却)または解体などの対応をアドバイスします。

岡市民生活課



〈問い合わせ先〉市民生活課 (☎ 82-1133)